



さとのかぜ

NO.162

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

11月号 2008年11月1日発行

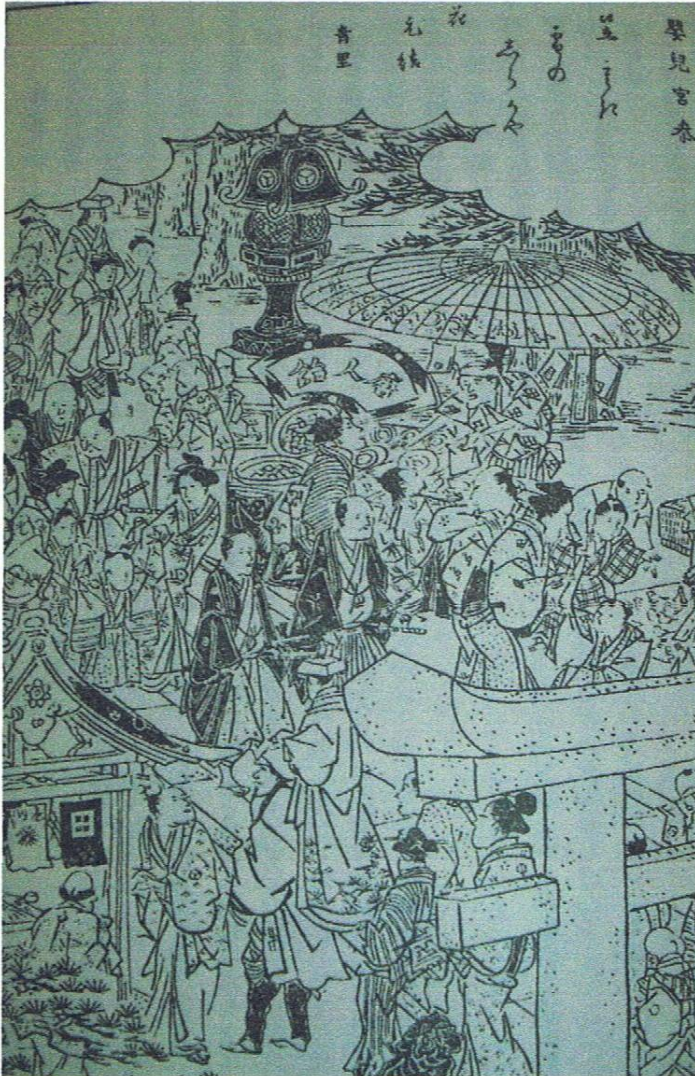
編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

「七五三」と「七ツ子の紐解き祝い」



『東都歳時記』に描かれた江戸時代の七五三。「嬰兒宮参。髪置(3歳)、袴着(5歳)、帯解(7歳)等の祝いなり」の解説がある

11月の別名は[霜月]、[雪待月]、[霜降月]と、近づく冬を思わせるものが多く、他に出雲大社に出かけていた神様が帰ってくる月[神帰月]、菊が花盛りとなるところから[菊月]などがあります。

さて、11月の行事といえば「七五三」。3歳と5歳の男児、3歳と7歳の女兒のお祝いです。七は七曜(日・月・火・水・木・金・土)、五は五節(正・三・五・七・九月の各節)、三は三山信仰(天・山・地の神)の数字にちなみ、かつては陰暦の11月の吉日とされ、特に日は決められていませんでした。15日となったのは、江戸時代、徳川綱吉の子徳松の祝いをこの日に行ったことに由来するとか。

古来3歳、5歳、7歳のいずれかの年齢で子供の成長を祝う儀礼が各地方にありました。7歳に祝う地方が多かったのは「七つ前は神の子」と言われ、7歳となって初めて地域の一員として認められたことに由来するようです。県内では7歳の祝いを「七ツ祝い」「紐解き」「帯解き」と呼び、婚礼に次ぐ盛大なお祝いが行われていたとか。[籠餅](大きな竹かごに紅白の餅を入れた物)などを記憶されている方も多いのでは。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

10月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○『竹かご教室』第2～5回 4日、5日、11日、12日

○『芋掘りをしよう』18日

《竹かご教室》

5回におよぶ「竹かご教室」は、雨の日が一日あっただけで、おおむね好天に恵まれました。23名の参加者のうち、過半数の方々が全回を出席し、筏底のかごと六ッ目かごの二つのかご作りにいそしみました。



ひごを作る講師の手元にうっとり

簡単に割れそうなものですが、どっこいこれがうまく割れません。斜めに裂けたり、厚くなったり薄くなったり・・・。習熟者や講師の方がたの手にかかると、いとも簡単にすべるように割れてゆきます。

「ナタは固定し、左手で竹を送ってゆけばいいんです」

と講師の河野さん。四苦八苦しなながらも、どうにか芯となるひごを作り、底の部分となる筏底を組み、つづいて側面の部分の編みあげです。が、側面用の長いひごは初心者にはとても作るのが難しく、ついつい習熟者や講師河野さん、尾形さん、関さんに頼ることとなりました。

それでも最終日には、筏底の手提げかごと六ッ目のかごを編みあげて皆大満足。丁寧かつ厳しく指導

竹かご作りの基礎は一にも二にもひご作り。まずは竹割り用のナタを手にひご作りに挑戦しました。竹には繊維

がありますから、簡単に割れそう



5日間のひごの格闘を経て作り上げた竹かごを手に全員集合。

センタートピックス 11月

＜さとの文化祭開催＞



15日(土)～24日(月振休)まで、センターで、『第12回さとの文化祭』が開催されます。夷隅郡市の小学校をはじめ、一般の方々からもたくさんの作品が寄せられています。絵画や自然観察の記録、陶芸に自然をテーマとした工作物等々。芸術の秋にふさわしい作品の数々をぜひ見に来てください。

そして作品を鑑賞した後は、秋の風情あふれるセンター内を散策してみてください。そこは自然の描きだした天然のギャラリーとなっています。色づいた葉や木の実、楚々とした秋の草花を愛でながらのウォーキング。目も心もそして体も癒されるはずです。

いただいた講師の方々へ感謝の声とともに、「竹かご教室を毎月開いて欲しい」、「違った種類の編み方を教えて欲しい」といった意見がよせられました。

竹かご作りに使われたマダケは、日本の在来種。古来からかごや細工物、建築材として広く利用されてきました。『万葉集』には19首のタケとみえる歌が載っています。ちなみにモウソウチクは中国原産で、日本へは18世紀頃に渡来したと言われています。

《芋掘りをしよう》

12家族、計30名(大人16名、子ども14名)が参加。身支度を整えて、定刻に生態園の畑に集合。センター長より作業の手順や留意点について説明を受け、まずは畑全面を覆うイモの葉とつるを鎌で刈り取りました。作業が終わった畑は、ほのかに土の香りが漂い、しっとりとした土の感触も心地よく感じられました。

次は移植ごてを手に、いよいよサツマイモの掘り出しです。5月の半ばに植えられたサツマイモは、ベニアズマとコトブキの2種類。今年の夏は雨が極端に少なく、生育が心配されていました。が、掘り出してみると、生育は例年並みでした。「イモづる式に・・・」と言われるように、一本のつるに大小のサツマイモがついた状態で掘り出されてゆきます。自分の顔ほどもある大きなサツマイモを掘り出して歓声を上げる子。土の



こんなに大きなオイモがとれたよ。

中から飛び出したネズミやカマキリに興味津々の子。イモ畑には、子供たちの歓声と大人たちの笑顔が広がりました。

全部掘り上げると、こんどは焼き芋作りです。1人あたり数本のサツマイモをきれいに洗い、濡らせた新聞紙で包み、さらにアルミ箔で包んで準備はOK。早朝からモミガラを燃やして燻炭とした中へ押し込んで、待つこと30分。焼き芋のできあがりです。美味しそうな、いえ、本当に美味しいホッカホカの焼き芋をその場で頬張り、皆心からの笑顔で行事を終えました。



収穫したサツマイモと参加者。焼き芋として味わい、残りはお土産として持ち帰りました

サツマイモには現代人に不足しがちな食物繊維が豊富に含まれていることは周知のことですが、ビタミンB1、ビタミンC、カロテンも豊富で、ことにビタミンCは、熱を加えても失われにくいという特徴があります。サツマイモは、10月から1月にかけてが旬。惣菜として、またデザートとして、もっと食卓ののせて欲しい食材の一つです。ついでに言えば、千葉県はサツマイモの生産高全国1位。栽培されている品種はベニアズマが一番多いそうです。

(大東 悠子)

和泉-日在浦だより 広がった砂浜の恩恵 (2008年11月1日)



ダイサギの飛翔(江場土、10/13)

[冬鳥の飛来]

入江には、冬鳥であるヒドリガモやコガモなどがはや飛来しており、江場土川などの小河川では、留鳥のカルガモ、ダイサギ、アオサギなどの摂餌風景がすぐ傍で見られます。オオミズナギドリの海上飛翔も地元バードウォッチャーと共に観察することができました。

[グンバイヒルガオの成長を確認]

和泉浦海岸で大きく成長したグンバイヒルガオの株を確認しました。 沖縄や鹿児島・宮崎の海岸に生育することが知られており、その種子が黒潮に乗り当地の海岸に漂着、発芽し、成長したものです。今年台風が襲来せず、和泉-日在浦の海岸線が拡大したことに関係がありそうだと、千葉県立博物館研究者からコメントを寄せてもらっています。「関東地方では、夏の間にも成長しても冬の寒さで枯れる」と文献にありますが、千葉県白浜で開花した例もあると聞いており、当地で越冬の様子を観察してゆきたいと思っています。



[ウミガメは産卵10ヶ所すべて孵化]

今年度当地の浜のアカウミガメ繁殖については、

10月1日いすみ市水産班が筆者らと共に 最終の孵化 調査を行



ウミガメ孵化調査風景 (10月1日)

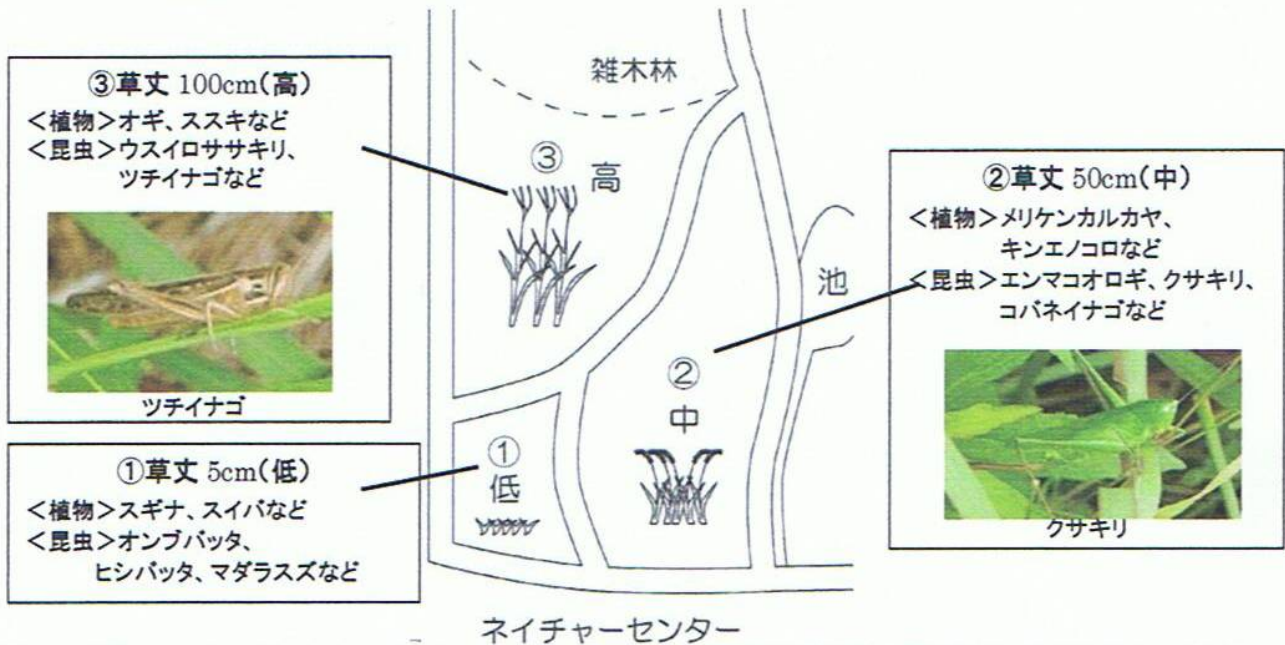
い、10ヶ所の産卵巣すべてで子ガメの孵化を確認できたのは、嬉しいことでした。総合孵化率は約77%であり、この10年で最高の成績でした。しかしこの日の調査で、四肢の発育に異常のある子ガメが多数見つかり痛ましいことでした。海洋の汚染が心配され、ウミガメが生きてゆけなくなる時はヒトも生きてゆけなくなるという思いを新たに [森谷 淵 (もりや ふかし)]

しました。

◎今、いすみでは???

今日は10月25日(土)、曇り空です。センター裏にある昆虫広場では、コオロギやキリギリスの仲間の鳴き声が聞こえます。今回はその昆虫広場を詳しく調べてみました。

昆虫広場は一面草原になっていますが、実は3区分に分けられています。よく見ると、その3ヶ所は草の高さが違います(下図)。①が一番低く(5cmぐらい)、②は中くらい(50cmぐらい)、③が一番高くなっています(100cmぐらい)。これは、草を刈る回数を分けているからです。今年は7月から草を刈り始めて、①は4回(7,8,9,10月の月1回ずつ)、②は2回(7,8月)、③は1回(7月のみ)という具合にしました。違うのは草の高さだけではなく、草の種類も違っていました。そしてその3ヶ所にはそれぞれ違った生き物がいました。それぞれの場所に行き、よく耳を澄ますと、虫の鳴き声の種類が違うことにも気がつきます。ちょっとした環境の違いにも、それに適応する生き物がいる。多様な環境に多様な生き物が暮らしている。草刈の仕方を工夫するだけでも、そんなことが見えてきます。



いすみの気象情報(10月)

平均気温：18.1℃ 最高気温：25℃ 最低気温：7.2℃ 総雨量：196.7mm



エビガラスズメ
 <幼虫>
 (スズメガ科)

今月の

見い~つけた!

No.7

芋掘りの際に、大きなイモムシがサツマイモの葉についているのを、参加したお子さんが見つけました。サツマイモやアサガオを食べる大きなガの幼虫です。芋掘りをしていると、ストローのような口をもった「さなぎ」もよく見つかります。これもエビガラスズメです。成虫は背中に赤と黒のしま模様があるのが特徴で、夕暮れに花の蜜を吸います。この幼虫、お芋に負けず劣らず栄養価が高いとアジアでは食用にされているそうです。焼イモと焼きイモムシ、皆さんはどちらがお好きですか!?(堺 勇人)

11月の行事案内

★『わらでおきもの細工をつくろう』定員20名

日時 9日(日)9:30~15:00



場所 ネイチャーセンター

持ち物 工作ばさみ、座布団、お弁当

★『第12回さとの文化祭』

日時 15日(土)~24日(月振休)

場所 ネイチャーセンター

*作品の応募・搬入等詳細はお問合せ下さい。

<12月の行事予定>

★『つるでリースづくり』定員20名

日時 7日(日)9:30~16:00

場所 ネイチャーセンター

持ち物 鎌、剪定ばさみ、お弁当他

★『もちつきをしよう』定員40名

日時 14日(日)9:30~14:00

場所 ネイチャーセンター

★『おかざりをつくろう』定員20名

日時 23日(火祝)

午前の部 9:00~12:00

午後の部 13:~16:00

場所 ネイチャーセンター

持ち物 実費材料費、工作ばさみ他

1月の行事予定

『そば打ちをしよう』

18日(日)9:30~14:00 定員20名

参加対象:中学生以上

集合場所:ネイチャーセンター

持ち物:実費材料費・手ぬぐいタオル等

『わらぞうりをつくろう』

25日(日)9:30~16:00 定員20名

雨天実施 参加対象:奨学年生以上

集合場所:ネイチャーセンター

持ち物:木ばさみ・お弁当・座布団他

*11月1日(水)より申し込み受け付け開始

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日時 11月16日(9:30~16:00)

場所 ネイチャーセンター

講師 高木 守人氏

参加料 無料

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

*次回は12月21日(日)開催予定です。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

* eメール可(メールアドレス: info@isumi-sato.com (@は全角です))

* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

*「さとのかぜ」の定期購読を希望される方は、郵便代として、80円切手12枚、または960円にて受付ます。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間:9:00~16:30、入館料:無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。